

# 工

Kodai

1 ●ごあいさつ

同窓会会長  
学長  
副学長  
副学長  
工学部長  
新後援会長  
学科長

電気電子工学科  
情報通信工学科  
建築学科  
都市マネジメント学科  
環境エネルギー学科  
クリエイティブデザイン学科  
安全安心生活デザイン学科  
経営コミュニケーション学科

秋元 俊通  
今野 弘氏  
渡邊 浩文氏  
菊地 良覺氏  
小林 正樹氏  
小鹿 信弘氏

内野 俊氏  
工藤 栄亮氏  
石井 敏氏  
高橋 敏彦氏  
山田 一裕氏  
坂手 勇次氏  
小山 祐司氏  
岡部 雅夫氏

- 11 ●支部活動等報告
- 16 ●ホームカミングデー/工大祭の案内
- 17 ●新学部・新学科 誕生。
- 建築学部開設記念パーティーの案内
- 18 ●課外活動報告
- 仙台城南高校だより
- 19 ●同窓会総会・懇親会のお知らせ

# 大

Jin!



## ご挨拶



東北工業大学同窓会 会長

秋元 俊通 (あきもと としみち)

1975年 土木工学科卒業(5回生・菊地研究室)  
現在 株式会社 秋元技術コンサルタンツ  
代表取締役  
土地家屋調査士 秋元俊通事務所  
所長

会員各位におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

平成から令和への御代変わりに対しましては、心よりのお慶びを申し上げます。「令和」の英訳” Beautiful Harmony” (美しい調和) のとおりの素晴らしい時代を築き上げたいものです。

我らの母校は創立 55 周年を迎えました。また、今年度からの 5 年計画「TOHTECH2023」として、新学部学科の創設及び新校舎の建設などを打ち出しました。当然それなりの経費も必要ですので、寄付の募集も行われます。母校の歴史と伝統そして発展は、同窓生の拠り所です。当同窓会といたしましても、大いに協力いたす所存でございますので、会員皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

母校の半世紀を超える歴史と並行して、当同窓会々員も3万5千人を超え、各地各界でご活躍されておられます。今こそ私たちの新たなネットワークを構築して、会員各位の活躍の場を広げ、活動の成果を高めようではありませんか。各位のご協力を切にお願いいたすところ です。

ネットワーク構築の一環として、北海道支部、青森支部、新潟支部、北上支部(岩手県)の支援および岩手県、秋田県、福島県および関東圏での同窓生の集いを開催いたしております。また、山形県では支部結成の声が上がり、今年度の設立にこぎつけられましたことは、大変喜ばしいことです。各地区で会員有志

の小さい火種から立ち上げて、会員自らで大きな炎にさせていただきたいと存じ、同窓会は今後もそのきっかけを作ってまいります。

早いもので、東日本大震災から8年余りが経ちました。亡くなられた皆様には衷心より哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様には心からのお見舞いを申し上げます。また、この間、復旧・復興に携わってこられた皆様および直接・間接に支援してこられた皆様に、心よりの敬意を表します。「わが国、特に東北地方の産業界で指導的役割を担う高度の技術者を養成する」という東北工業大学の建学の精神は、この震災の復旧・復興において具現化されたと申せましょう。東日本大震災の完全復興には、宮城県は集中復旧・復興の最終章に、岩手県は昨年度で復旧期を終了、福島県も「新生ふくしま 2020」に向けて約95%が完了と鋭意努力されている最中です。これらの被災と活動の記録を各地に広げ次の災害に備えることは勿論、風化させることがないように大学と連携しながら世代を超えて語り継ぐことも忘れてはなりません。

当同窓会も、まもなく創立 34 周年を迎えようとしています。これまでの皆様からお寄せいただきました深いご理解と篤いご支援に感謝申し上げますと共に、大学及び会員各位の今後益々のご隆盛を祈念いたし、挨拶に代えさせていただきます。

(令和元年 6 月記)



第 34 回定時総会・懇親会



# 新中期計画 「TOHTECH2023」 がスタート



東北工業大学 学長  
今野 弘 (こんの ひろし) 氏  
1971年 工学部土木工学科卒業  
1980年 工学博士(東北大学)  
1980年 東北工業大学工学部土木工学科 講師  
1995年 同工学部土木工学科 教授  
(現都市マネジメント学科)  
2008年 同副学長  
2016年 同大学学長

皆さまにはそれぞれの分野において、東日本大震災後の復興、再生に、精力的に取り組んでおられることに敬意を表し、またそのような活動が社会的に評価されていること、ご同慶の至りです。

平成から令和へと新時代になりました。大学では昨年度までの第二期中期計画を総括し、今年度から5カ年の新中期計画がスタートしました。建学の精神をよりどころにし、東北地方に位置する最も魅力ある工科系私立大学として、「多様な人材の育成と、持続可能な社会と環境を研究実践する、地域に根ざし、地域のニーズに応え、地域から信頼される自主自立の精神で発展する大学」を将来ビジョンとする「TOHTECH 2023」です。これはビジョンの実現のため教育、研究、地域連携などの領域における施策をまとめたものです。本計画は本学の教職員が十分に議論を重ねたものをベースにしており、全スタッフは共通認識のもと、各施策の目標達成に努めています。

今年度は、かねてより構想し、準備を進めていた学部学科再編に関して、年度当初に提出していた申請書が、このたび文部科学省に受理されました。したがって、2020年4月から、本学に建築学部建築学科、および工学部環境応用化学学科が新たに設置され、ライフデザイン学部ではクリエイティブデザイン学科が産業デザイン学科に、安全安心生活デザイン学科が生活デザイン学科に名称変更して新たな歩みを始めます。

さて、「TOHTECH 2023」の今年度は、「教育」は、入学生が全学部、学科で定員を確保でき、また収容定員は両学部とも年度当初で約110%を維持していて学生

の受け入れは順調です。今後教育の質保証と学生満足度を向上させる施策およびキャリア教育と就職支援も進めていきます。

「研究」では、「東北工業大学とつくる東北SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)」の研究実践拠点づくりに着手し、東北6県での円卓会議で同窓生や県民と方々と課題解決、製品・商品開発などの共同研究を進めるための情報や意見交換会を、今年はずでに青森市(6月1日)や北上市(8月24日)で開催しています。この活動は「社会貢献」につながるものであり、各県に在住する同窓生の方々にも積極的なご参加をお願いします。今後東京(11/23予定)、および日程は未定ですが山形、秋田、福島などでも開催予定です。

「TOHTECH 2023」では、「連携・交流」という領域も重点施策のひとつとして本学のブランド発信と同窓会や後援会との連携強化を図ります。昨年度10月に「ホームカミングデー」が開かれましたが、今年からは大学主催のイベントと位置付けて同じく大学祭日に開催します。大学祭では本学後援会企画の大学見学会も計画されています。同窓生の方々には、この機会に母校を訪問して、同窓生、学生、父母、教職員との交流を深め、また本学に対するご意見も頂戴できることを期待しています。

大学を取り巻く社会環境は厳しさを増す一方ですが、今後とも大学同窓会の皆さまのご協力、ご支援を仰ぎながら歩みたいと思います。



仙台赤十字病院との連携記念「地域連携シンポジウム」



オープンキャンパスの様子

## 持続可能な未来の東北を 協創しましょう！



東北工業大学 副学長  
渡邊 浩文 (わたなべ ひろのり) 氏  
1998年 工学部建築学科 講師  
2002年 助教授  
2008年 教授  
2012年 建築学科長  
2014年 工学部長、工学科研究科長  
2016年 副学長

同窓会におかれましては、日頃から本学の教育研究活動に様々なご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、昨年(2021年)の工大人 (vol.22) にて、「東北 SDGs 研究実践拠点の形成」そして「『持続可能な東北を研究・実践する東北工業大学』像を定着させていきたい」と申し述べました。東日本大震災後の様々な復興事業の「その後」を見据えた、東北の持続可能性を一層向上させる取り組みを、同窓会諸兄姉とともに進めていきたいと申し上げました。

大学と同窓会との具体的な共同事業として、「円卓会議」を各地で開催しています。昨年10月の仙台での開催を皮切りに、今年6月には同窓会青森県支部とともに円卓会議を開催しました。8月には岩手県北上支部とともに、11月には関東支部とともに円卓会議を開催すべく準備を進めております(各詳細は本会報の該当頁をご覧ください)。持続可能な未来の東北のために、本学そして同窓生が何をしているのか、何を為すべきなのか、真摯な開かれた議論の場として貴重な取り組みに成長しつつあります。今後、さらに各地で円卓会議を開催いたします。同窓会諸兄姉の益々のご参画をお願い申し上げます。

大学自身も、学内外連携を加速させる「東北 SDGs 研究実践拠点」の強化を、「減災・防災技術研究」、「医工学・健康福祉研究」そして「地域・地場産業振興研究」の3つのコア研究テーマを主軸にして進めております。

地域のニーズを取り入れ社会実装を加速する「プロジェクト研究所」については、昨年度末に生体医工学研究所や ICT システム研究所など7つの研究所が、今年度さらに AiR 研究所、制振工学研究所など4つの研究所が、設立されました。このプロジェクト研究所は基本的に外部研究資金を原資にするもので、本学教職員のみならず、学外の方が共同研究者もしくは本学所属の研究者として参画することを可能にしています。来る9月20日午後には仙台市・江陽グランドホテルにて、キックオフ発表会を開催いたします。皆さまのご来場をお待ちしております。

また研究活性化のために、学内に散在していたプロジェクト型研究予算を一本化し、萌芽型、発展型、実用化型、地域連携型の4タイプに集約した「学内公募研究」をスタートさせました。すでに今年度は25の研究テーマが

採択されています。募集に際しては、前述の東北 SDGs 研究実践拠点の3つのコア研究テーマやプロジェクト研究所との関連、そして SDGs における17の目標との関連を問う等、本学の研究資産を縦横に展開させるよう促しています。

このように本学の研究・実践活動の活性化は、学内外連携つまり同窓会の皆さまとともに取り組む「協創」を keyword に、「持続可能な未来の東北」という大目標を掲げてスタートしました。この取り組みを通じて、わが国、特に東北地方の産業界が一層活性化し、そして本学の学生・大学院生がさらなる成長を遂げ、そして同窓会の新メンバーとして、より良き社会の実現に寄与してくれることを強く期待しています。皆さまからの積極的なご意見・ご関与をお願い申し上げます。

お問い合わせは、研究支援センターにお問い合わせください。

E-mail [rs-center@tohtech.ac.jp](mailto:rs-center@tohtech.ac.jp)

URL <http://www.rc-center.tohtech.ac.jp/department/project/sdgs/>

**東北工業大学とつくる  
持続可能な未来の東北**

様々な研究シーズを持つ東北工業大学と共に、  
持続可能な新しい東北を創造しましょう。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

東日本から世界へ 社会から未来へ  
東北工業大学



## 共創の杜を目指した キャンパス整備



東北工業大学 副学長  
(ライフデザイン学部長兼任)

菊地 良覺 (きくち りょうかく) 氏

1976年 工学部工業意匠学科卒(6回生)  
1983年まで総合建設業及び建築設計事務所勤務  
1983年 工業意匠学科助手・1993年講師  
・2000年助教授  
2008年 ライフデザイン学部安全安心生活  
デザイン学科准教授  
2009年 同上教授・2013年同上学科長  
2016年 ライフデザイン学部 学部長  
2019年 副学長(ライフデザイン学部長兼任)

1964年(昭和39年)4月に本学が開学してから今年(2019年)で56年目を迎えております。その間の記憶に残る2つの大震災(宮城県沖地震1978年6月12日(木)17時14分25秒発生・東日本大震災2011年3月11日(金)14時46分18秒発生)では、本学の施設も甚大な被害を受けてきております。これまで八木山キャンパスでは、3号館改築、1号館改築、9・10号館新築、既存建物耐震補強等を行ってきております。一方の現長町キャンパスは、1990年に教養系施設として二ツ沢校舎として開設から18年後にライフデザイン学部の開設(2008年4月)に伴い長町キャンパスと名称変更してから12年目を迎えております。現在の本学は2つのキャンパスを持つ姿として生まれ変わってきております。このような56年間のキャンパスライフを多くの仲間と共に過ごされた同窓の皆様にとっても、「震災で仮設の施設で過ごしたこと」「入学式の時期が延期されたこと」「大変だったけれども何故か一体感が強まったこと」等、何かしらの記憶を思い起こされるのではないのでしょうか。

ところで、本学は記念すべき東京オリンピックイヤーとなる2020年度から新たに3学部(工学部・建築学部・ライフデザイン学部)体制になることから、それに伴い八木山キャンパスの姿も大きく生まれ変わろうとしております。

キャンパスの環境整備に関しては、全学構成員の合意のもと、新たな本学の中長期将来計画「TOHTECH2023」の中でも位置付けられ、新八木山キャンパス施設改築計画が現在進められております。改築計画の契機は、ハード面の法定対応年数50年と、ソフト面の学部学科再編によるものです。計画を進めるにあたっては、前提条件を「ソフト優先としたハード整備」とし、これまで八木山地域住民や卒業生にも参画して頂き「これからの工大の魅力ある八木山キャンパスづくりを目指して」のワークショップ等も重ねてきております。現在は基本構想から基本計画・基本設計の段階までに至っており、整備の基本コンセプトは『人と活動をつなぐ「地(知)の杜」東北工業大学』としております。

在学生への魅力ある教育・研究環境の提供はもとより、地域社会貢献を基本理念とする本学にとっては、これからも多くの地域や同窓の皆様の拠り所となることを目指した施設整備は不可欠であります。併せて、本学の50年後100年後を見据え、今後の社会要請に応えられる姿を目指すことが必要と捉えています。

従いまして、ますます同窓の皆様と共に愛される工大を共創していきたいと思っておりますので、皆様からのご助言ご支援を頂ければ幸いです。



八木山の造成前の姿(1947年)



5号館建設中(1968年)



長町キャンパス屋外時計



現在の八木山キャンパス



現在の長町キャンパス



八木山キャンパス整備構想図

- ・長町キャンパスは緑地保全地区指定により環境保全を視野に入れた整備が必要であり、杜の都仙台のシンボリックな存在感を市民との協働により構築することを目指します。
- ・屋外時計はライフデザイン学部設立10周年記念にて本学後援会より寄贈され設置しました。

## 工学部の近況と 新学部・新学科について



東北工業大学 工学部長

小林 正樹 (こばやし まさき) 氏

1961年 長野県生まれ  
1985年 東北大学工学部電気工学科卒業  
1986年 新技術開発事業団 (現科学技術振興機構)  
1991年 山形県テクノポリス財団、  
(株)生体光情報研究所を経て  
2000年 東北工業大学工学部電子工学科助教授  
2006年 同教授  
2016年 工学部長

同窓会の皆様には、日頃より物心両面にわたるひとかたならぬご支援を賜り厚く御礼申し上げます。大学は震災後の厳しい一時期を脱し、工学部においても全学においても志願者数が増加傾向に転じております。就職支援や教育における手厚いサポートなど、本学の面倒見の良さが社会から認められていることによるものと考えられますが、その背景には同窓会諸兄のご活躍による地域に根ざした大学としての社会的評価があるものと確信しています。

さて、いま世の中は、AI、IoT、5Gといったキーワードに象徴される、とくに情報通信分野での技術革新がその牽引力となって、“パラダイムシフト”とも呼ぶべき大きな変化の只中にあります。Society5.0 (超スマート社会) や第4次産業革命などとも呼ばれ、産業構造の変化のみならず、あらゆる社会システムの変革が進んでいます。従来の知識や概念が急速に陳腐化してしまうような、不確実で将来が見通せない不透明感が増す中であって、大学は社会の変化に先駆けてその進むべき道を示し、リードすべき立場にあります。本学も社会の変化を鋭敏にとらえ、つねにあるべき姿を模索しています。

来年度本学は工学部の改組再編を行います。工学部では2017年度に知能エレクトロニクス学科が電気電子工学科に名称変更しましたが、2020年度からは建築学科が新しく建築学部として工学部から独立し、また工学部環境エネルギー学科が、環境応用化学学科に改組されます。建築学部は、本学の50余年の長い歴史によって培われた建築学科の特徴と強みを活かし学部として独立することで、従来の工学の範疇だけでは包摂することのできない、建築学の幅広い学問分野をよりわかりやすく社会に提示することができます。またライフデザイン学部と工学部の間に位置する建築学部として、文系理系という既存の枠を越えた新しい大学像を示します。環境応用化学学科は、環境エネルギー学科がその学問基盤の一つとしていた応用化学を学問的支柱として明確にし、それをベースとして環境問題を解決する素材・

材料、再生可能エネルギー、環境保全などの教育・研究に貢献する学科として生まれ変わります。急速に進む少子化の中で、選ばれる大学として生き残っていくためには、将来を見据えた組織改革とともに教育と研究の強化を迅速に進めていく必要があります。研究においては、「持続可能な未来の東北をつくる」というスローガンのもと、本学が強みとする「防災・減災技術研究」、「医工学・健康福祉研究」、「地域・地場産業振興研究」をテーマとする研究拠点の形成や、学科横断的な共同研究プラットフォームとして11の「プロジェクト研究所」を整備しました。本学にオリジナルな研究や地域との連携活動を組織的にバックアップし、大学としてのブランド力を高める努力を行っています。このような現状にあって、同窓会の皆様には本学の人材育成や地域連携の架け橋として大学に積極的に関わっていただくことを望みます。卒業生を受け入れる社会の側の立場として、工大が実践すべき教育・研究のありかた、進むべき方向についてご助言ください。迫る変革の荒波の中にあって、同窓会の皆さんに寄せる期待はこれまでも増して大きくなっているという現状をご理解いただけると幸いです。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



1号館 1F totech LOUNGE にて



## 同窓会との連携強化



東北工業大学 新後援会長  
**小鹿 信弘** (こしか のぶひろ) 氏  
 2002年 東北工業大学後援会 理事  
 2004年 東北工業大学後援会 監事  
 2012年 東北工業大学後援会 副会長  
 2019年 東北工業大学後援会 会長

東北工業大学同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝でご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。この4月より、東北工業大学後援会長に就任いたしました本学建築学科8回生の小鹿と申します。

さて、後援会は、昭和60年4月に発足してから今年で34年目を迎えます。後援会の会員は在学生の父母であり、目的は大学の興隆発展に寄与し会員相互の連携を図ることにあります。同窓会とは支援対象や支援内容が若干異なりますが、工大を支援し、工大の発展に寄与する組織であることに変わりありません。ここでは同窓会の皆様に後援会の主な事業をいくつかご紹介させていただきます。

### 1. ご父母対象事業

『父母懇談会』仙台会場2ヵ所（八木山キャンパス・長町キャンパス）の他、東北5県と新潟県の計8会場で開催しております。ご子女の所属学科教員との個人面談を行っており、学業のことは勿論、授業への出席状況、就職対策、課外活動等について、直接教員からアドバイスをいただいております。その他、各会場では、就職関連、今どきの学生の現状と課題など、専門の講師による講演会も実施します。

『大学見学会』10月の大学祭時に開催しております。日頃の学生の活動の様子や成果を見ることができ、県外からも多くのご父母にご来場いただいております。

### 2. 学生対象事業

『貸与奨学金』歴代のご父母から委託されてきた特別

積立金の使途の一方策として、平成12年度から東北工業大学後援会貸与奨学金制度が制定され、4年次に在籍し、経済的事由により就学が困難な学生に対して後援会が銀行と提携して奨学金を貸与しております。

『100円朝食キャンペーン』平成29年度後期より大学が実施している100円朝食キャンペーンの経費を援助しております。朝食を摂らないことで生活リズムが乱れ、不規則な食生活で体調を崩してしまう学生の健康管理や、生活習慣を改善し、学業に専念できる状態を維持することを目的として実施しております。

『就職支援』就職活動時に活用する就職の手引の作成や支援講座・模擬テスト等の経費の一部援助を行っております。

『課外活動支援』クラブ活動の用具類等の援助を行っております。また、昨年度は、課外活動優秀者として、6団体、30名の個人が学長から表彰されましたが、後援会では、その6団体と30名の個人に対し副賞を贈呈いたしました。

以上のような事業以外にもご父母、在学生、大学のために多くの施策を実施し、満足度の高いサービスの提供を心掛けております。私も同窓生の一人でございますので、同窓会と後援会の絆を更に強化し、同窓会と後援会が車の両輪のごとくしっかりと連携し工大の支援・後援を行っていきたくと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくごお願い致します。



父母懇談会（八木山キャンパス）



100円朝食キャンペーンを利用する学生

ごあいさつ

## 電気電子工学科の 更なる発展を目指して

電気電子工学科 学科長

内野 俊 (うちの たかし) 氏

1989年3月 筑波大学大学院博士課程修了、工学博士  
1989年4月 株式会社製作所中央研究所入社  
2002年7月 サウサンプトン大学上席研究員  
2011年4月 東北工業大学教授  
現在に至る



卒業生の皆様におかれましては、ご健勝にて各方面でご活躍されていることをお喜び申し上げます。また、皆様方には常日頃よりご支援をいただき、ありがとうございます。この場を借りて、御礼を申し上げるとともに、本学科の近況報告をさせていただきます。

今年度は、145名の新入生を迎えることができました。例年実施している学外オリエンテーションを4月8、9日に秋保温泉において行いました。初日は学科紹介の後、少人数のグループに分かれて、30年後の未来技術に関するポスターを作成しました。2日目は、初日に作成したポスターに関する口頭発表会と教員による研究紹介を行い、午後には三居沢水力発電所、県警察本部、科学館を見学しました。就職に関しても大変好調で、近年就職率100%を達成し、全国でもトップクラスの就職率を維持しております。

本学科は、2年前に電気電子工学科に名称変更し、エネルギーを支える電気工学と電子機器を支える電子工学の両方を学べるという特色を明確にしました。ものづくりを通して、人づくりを行うことを目的として、電子機械・ロボット系、医工学・バイオ系、光・情報デバイス系の3つの専門分野を設置して幅広い専門知識を習得できるようにしております。今後は、電気・エネルギーの分野にも注力し、社会のニーズに応えられるような体制を整えていこうと考えております。

近年、従来から取り組んできた資格取得の特別講座が結実し、電気工事士や基本情報技術者の合格者が増加し、第三種電気主任技術者試験の合格者も出ております。また、資格取得者の増加にとともに、第一志望の会社に内定する学生も増えております。

今後も本学科の更なる発展を目指して、教育や研究に取り組んでいく所存です。卒業生の皆様のご指導とご支援をどうぞよろしくお願い致します。



学外オリエンテーションでグループワークに取り組む新入生

ごあいさつ

## 情報通信工学科 15周年を迎えて

情報通信工学科 学科長

工藤 栄亮 (くどう えいすけ) 氏

1988年 日本電信電話(株) 入社  
2001年 東北大学大学院工学研究科電気・通信工学専攻 助教授  
2009年 東北工業大学工学部情報通信工学科 教授  
2018年 東北工業大学工学部情報通信工学科 学科長



同窓生の皆様には常日頃よりご支援いただき、感謝申し上げます。情報通信工学科は本学開校時からある通信工学科を母体とし、2004年に名称変更してから15周年を迎えました。以前はITという言葉をよく耳にしていたのですが、近年では情報通信技術と訳されるICTという言葉が普及し、北海道・東北地区で唯一の情報通信工学科というキャッチフレーズもますます魅力的になっております。

さて、情報通信工学科の近況についてご報告いたします。

まず、2019年度の入試では、受験者数が定員の約5.6倍となっており、146名が入学しました。就職に関しても近年好調で、就職率はほぼ100%（2018年度卒業生の未内定者は1名のみ）です。

教育面では、2017年度からの新カリキュラムを受講している学生が3年生となり、情報通信工学実験の実験テーマも最新のものに更新中であります。また、少人数教育を行うセミナー科目が全ての年次で開講され、研究の基礎となるプレゼンテーション能力等の向上も目指しながらきめ細かな指導を行っております。学生の課外活動も活発であり、一例をあげますと2018年度は宮城県警察サイバーボランティアに9名の学生が参加し、宮城県警察より感謝状が授与されました。

さらに、資格取得支援も継続的に力を入れており、2018年には国土交通省の認可を受け、本学科を卒業すると電気工事施工管理技術検定試験の受験資格に必要な実務経験の年限が短縮されることとなりました。他にも様々な資格取得支援がありますので、詳しくは本学科HPをご覧くださいければ幸いです。

同窓生の方々にとって誇れる母校を目指して今後も努力を重ねて行く所存ですので、引き続き皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



卒業研修ポスター発表会



ごあいさつ

## 全国6大学目となる 建築学部開設へ！

建築学科 学科長

石井 敏 (いしい さとし) 氏

1969年 米国生まれ 静岡県出身  
2001年 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 博士後期課程修了  
2001年 東北工業大学工学部 建築学科 着任  
2010年 東北工業大学教授  
2014年 東北工業大学建築学科長 (現在に至る)



振り返れば2010年に遡ります。当時、バブル後の不況もあり、建築学科への志願者数は減少、入学定員も満たせず苦しい時期が続いていました。学科教員で手分けして、東北地方すべての建築系学科を訪問し、各大学の教育の特色などを情報収集しました。私たちの「売り」を見つけ、今後どのような建築学科にしていくのか、そのヒントを得ようとしたものです。大阪と東京の大学では「建築学部」が立ち上がるとの情報もあり(2011年に2大学で誕生)、各大学が生き残りをかけて次の一手を考えていた時でした。私たちが辿り着いた結論は本学での建築学部の設置でした。建築学が学べる大学は数多くあれど、本学科ほど歴史もあり、総合的に建築学を学ぶことができる教員体制と教育・研究環境を持った大学は多くありません。その強みをしっかりと社会にアピールすることが大切だと考え、その一つの形として建築学部設置を考えたわけです。1966年に建築学科が設置されて以来、堅実な教育・研究の実践で本学科の基盤を確立し、プレゼンスを高めて下さった先輩教員の努力、また本学卒業生皆さまの社会での活躍と時を経ても変わらない本学科への愛情、そして企業や社会からの本学科の建築教育と人材育成への期待。本学科なら間違いなく建築学部ができる、という確信がありました。東日本大震災もあり、学内での議論と意識共有、文部科学省への届け出など、気がつけば10年。いよいよ2020年4月に建築学部建築学科(定員135名)が誕生します。この間、学部設置に向けて卒業生の皆さまにも応援と励ましをいただきました。これまで歩んできた歴史と卒業生の皆さまとつくりあげてきた伝統を引き継ぎながら、建築学科は新たなスタートを切ります。さいごに、2020年4月18日(土)。仙台にて建築学部設置記念のパーティーを開催いたします!お楽しみに。



定員120名になってから最多の156名の新入生!

ごあいさつ

## 益々充実する 学科を目指して

都市マネジメント学科 学科長

高橋 敏彦 (たかはし としひこ) 氏

1978年 東北工業大学工学部土木工学科 卒業・助手  
1993年 東北工業大学工学部土木工学科 講師  
2000年 東北工業大学工学部土木工学科 助教授  
2004年 東北工業大学工学部建設システム工学科 教授  
2018年 東北工業大学工学部都市マネジメント学科 学科長 (現在に至る)



同窓生の皆様には、常日頃よりご支援を頂き感謝申し上げます。お陰様で都市マネジメント学科の就職率は、毎年ほぼ100%を達成しております。これもひとえに卒業生の皆様が各方面でご活躍されている賜物と感謝しております。始めに学科の近況についてご報告させていただきます。

今年の3月に54名の卒業生(49回生)を送り出し、4月には108人の新入生(53回生)を迎えました。現在都市マネジメント学科1~4年生の在学生数は、399名のうち女子学生は19名となっております。

2006年に学科教育プログラム「日本技術者教育認定機構(JABEE)」の認定を受け、継続、継続の審査を受けて、現在まで認定されてきました。来年度6年ぶりの継続審査のため、学科教職員全員で準備を開始したところです。なお、科目等の普段のエビデンスは Semester毎に確認しております。

次に、都市マネジメント学科教員の着任についてご報告いたします。今年度2名の新任教員が着任いたしました。お一人目は、東北大学大学院より着任された北條俊昌(ほうじょうとしまさ)准教授です。ご専門は、環境保全工学で環境関係の科目をご担当されます。お二人目は、菅原景一(すがわらけいいち)助教で高校教員より着任されました。菅原先生は本学科のOBでご専門は河川工学です。水理学全般の科目もご担当されます。今年度は2研究室(CE進路セミナー等担当、4年生の研修は来年度より担当)が加わり、11研究室で教育研究に臨みます。

当学科には、土木工学科、建設システム工学科、都市マネジメント学科の卒業生等及び現・旧職員によって構成されている「工大杜の会」があります。現在卒業生は、6,700名を超えております。毎年10月下旬の土曜日に、仙台市内にて「工大杜の会」の集いを行っております。就職活動を控えた3年生も参加して、卒業生との交流による業界の情報収集や企業研究の場としても活用しております。卒業生の皆様、是非ご参加ください。



平成30年度「工大杜の会」の集い(2018.10.13)

ごあいさつ

## 「環境応用化学科」 として新たにスタート

環境エネルギー学科 学科長

山田 一裕 (やまだ かずひろ) 氏

1964年 大阪府生まれ  
生活協同組合都民生協、青年海外協力隊 (モロッコ) 派遣  
東北大学工学部助手・講師、岩手県立大学総合政策学部  
准教授・教授

2010年 本学環境情報工学科 教授

2018年より現職、水環境保全技術の研究に携わる



同窓生の皆様には日頃よりご支援いただき感謝申し上げます。就職率は堅調に推移しており、「環境」を冠した学科としては20年に満たないものの、卒業生らの活躍を様々な場面で見聞することも増えてきました。ひとえに同窓会の皆様が各方面でご活躍され、ご支援いただいているおかげと考えます。環境エネルギー学科は2020年度から環境応用化学科として新たにスタートします。この場をお借りして新学科設置の経緯について説明をさせていただきます。

環境エネルギー学科は2012年度に開設されるまで、11年間、環境情報工学科として1000人を超える学生を迎え入れてきました。環境情報工学科では、環境問題に関する現象の実態や影響評価、対策技術等に貢献する、環境情報の高度な処理技術力を養成してきました。

2011年3月の東日本大震災や原子力発電所事故による環境破壊は学生の人生観にも大きな影響を与えたと思います。環境エネルギー学科では、環境やエネルギー問題の解決とそれらを結びつける経済やマネジメントのあり方を工学とともに学び、持続可能な社会づくりに寄与する人材育成をめざしてきました。学生は、復興に役立ちたい思いや、再生可能エネルギー技術についての学びを期待し、私たちもそれに応えるべく指導してきました。

一方、複雑に絡みあう環境・エネルギー問題において、人体や生態系を脅かすのも、温暖化防止のためのエネルギー利用も、豊かな生活をもたらす生活・産業資材の製造にも、体系的な学問としての化学とその工学的理解が求められます。そこで、本学には今までなかった化学を基幹分野とした学科として再出発することになりました。

新学科とはなりますが、「環境」人材の育成を今後ともつなげて参ります。これまでと同様、ご支援とご協力をお願い申し上げます。



「就活指南」卒業生と3年生との交流会



1年生社会見学「被災した蒲生干涸の現状」

ごあいさつ

## Design is power to change !

クリエイティブデザイン学科 学科長

坂手 勇次 (さかて ゆうじ) 氏

1959年生まれ

1982年 3月 京都工芸繊維大学 意匠工芸学科 卒業

1982年 4月 オムロン株式会社 入社

広報宣伝部、デザイン部、経営戦略部、技術本部企画室長、オムロンFAストア(株)代表取締役社長などを歴任

2013年 4月 東北工業大学 教授 現在に至る



クリエイティブデザイン学科は2008年にスタートし、昨年に10周年を迎えることができました。1967年設置の工業意匠学科から数えると50年以上の歴史を誇ります。本学におけるこれまでのデザイン教育、研究、社会貢献の歴史を振り返れば、同窓会員の皆様の輝かしい功績の賜物であることに深く感謝申し上げます。学科教員一同、更なる学科の発展に向けて努力して参る所存ですので、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

さて、本学科は来年度から学科名称を「産業デザイン学科」に変更します。今日のデザインに求められるものは、「美しさ」だけではなく、社会における「価値創造」そのものまで拡大しています。新たな技術革新が進み、モノとサービスが融合する次なる産業革命が始まります。目まぐるしいスピードで変化する社会にあって、テクノロジーが追求する「効率」とは対極にある、人間の感性的な「価値」を創造する担い手として、デザインは益々その活躍の場を広げています。企業との産学連携など「実践」の学びを通して、デザインが本来持つ変化の本質を見抜く目と豊かな発想力で、未来の成長産業の創出と発展に貢献する人を育成して参ります。

今年の学科のスローガンは"Design is power to change!"「デザインとは、変えていく力」。デザインの力はまだまだ未知数です。世の中を変え、自らも変わる、これからの学科の活躍に是非ご期待ください。最後になりましたが、来年2月後半には卒業制作展とOBOG会を開催する予定です。皆様のご参加を賜り、親交を深めて頂ければ幸いです。以上、近況報告ならびにご挨拶とさせていただきます。



2019 / 2 / 16 OBOG会



ごあいさつ

## 「生活デザイン学科」へ



安全安心生活デザイン学科 学科長

**小山 祐司** (こやま ゆうじ) 氏

1955年 山形県生まれ

1978年 東北大学工学部建築学科卒業、同大学院博士課程満期退学

1984年 東北工業大学助手、講師、准教授、教授

2014年 3月から現職

本学科が設立されて、11年目になりました。来年の4月から、学科名称が「生活デザイン学科」と変更されます。当初は、学科の教育内容などを説明するのに苦労したことが思い出されます。しかし、大震災以後は、「安全安心生活デザイン学科」が地域とともにある学科であると、広く認識されました。いま、大震災から8年目となり、非常時ではなく平時の暮らしに対する取り組みの割合が増えて参りました。それと同時に、学科名称に対して、狭義の生産工学上の「安全学」を連想されるなど、高校生や企業からは「学ぶ内容が分かりにくい」などの意見も寄せられるようになってきました。

今日、日本の社会、特に東北地方では、少子高齢化や災害頻発期を迎え、様々な問題に直面しています。一方で、私たちの地域には、共助の精神や自然・文化といった多くの資源が残されています。暮らしやすい生活とは何かを再考し、力強く地域の生活をデザインすることが、いま求められているのです。

本学科では、「住まいのかたち」と「くらしのしくみ」、それをとりまく地域社会について、総合的に学びます。そして、知恵と技術を身につけた、優れた技術者・デザイナー・コーディネーターの育成を目指しています。

すなわち、社会・地域に寄り添い、関わり合う大学・学科であるからこそ、地域の人々の生活（福祉・住まい・くらし）をデザインするシンプルな名称として、「生活デザイン学科」と変更することとしました。リアルな地域とともに、地域の変化を感じながら、人々の「生活デザイン」づくりに取り組んで参ります。そのことを通して、生きた人材を育て地域に貢献することが、学科の役割であると考えております。今後とも皆様のご支援をよろしくお願い致します。



実習科目での屋台製作



雄勝 MORIUMIUS を学外授業で見学

ごあいさつ

## 社会が求めるジェネラリストの輩出を目指して



経営コミュニケーション学科 学科長

**岡部 雅夫** (おかべ まさお) 氏

1956年 東京都生まれ

2011年 慶應義塾大学理工学研究科開放環境科学専攻後期博士課程修了博士 (工学)

2013年 経営コミュニケーション学科 教授

経営コミュニケーション学科はおかげさまで2008年度の開設から12年目を迎え、東北工業大学に経営コミュニケーション学科ありと広く認知されるようになってきました。他大学の経営学科と比較して、経営学に留まらず、コミュニケーション力やICT(情報通信技術)活用力の教育にも力をいれ、社会が求めるジェネラリスト、「できるビジネスパーソン」の養成に力を入れてきたことが認められつつあると感じています。

近況報告としましては、まず、昨年度、就職率100%を達成することができましたことをご報告させていただきます。本学科卒業生が中核社員として活躍ははじめ本学科生の評価が高まってきたことと併せ、同窓会の皆さまが経営・在職している多くの企業から採用いただいた賜物と感謝しています。また、今年度新入生に関しては、女子学生が数で20名、率で21%と過去最高となると同時に、男女を問わず全体的に質も向上していると思います。こちらも、同窓会の皆さまのご息女・ご子息に多く入学していただいたおかげです。

教育に関しては、ICTを活用したアクティブ・ラーニングを今年度から本格的に導入しています。まだまだ手探りですが、共有されたパソコンの画面をプロジェクタで投影し、それをもとに、グループで議論し、解決策を立案していくことに、学生は思いのほか早く順応し、我々との世代の差を感じています。単にペーパーレスというだけでなく、電子的な情報共有だからこそ可能なコラボレーション力を身に付け、社会で活躍してくれるものと期待しています。

経営コミュニケーション学科はまだまだ歴史が浅く、教職員一同、試行錯誤の繰り返しですが、より皆さまのお役に立てる人材の輩出のために努力を続けていく所存です。今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。



ICTを活用したアクティブラーニング

### 【山形支部】

# 令和元年同窓会 山形支部設立します

仲川 昌夫 旧姓(畠中)(なかがわ まさお (はたなか)) 氏

最終学歴 1975年卒 建築学科卒業  
(6回生 田中研究室)

現 在 プレンススタッフ(株) 代表取締役

東北工業大学同窓会の皆様におかれましては元氣でご活躍のこととお慶び申し上げます。

東北工業大学は創立55周年を迎えました。設立当時は、1学部5学科でしたが、2020年には新たに1学部を新設し、3学部8学科に発展します。半世紀で卒業生も3万5千人を超え、山形県の産業界でも母校が排出した多くの技術者が多方面で活躍しています。

東北工業大学同窓会は、これまで「新たなネットワークをめざして」をスローガンに、仙台での定時総会の開催や支部活動の支援を実施してきました。現在同窓会支部としては、北海道支部、青森県支部、新潟県支部が設立され、様々な活動が繰り広げられています。

つきましては、この度、山形県におきましてもネットワークを構築し、活発なる情報交換を目指したいという意向から、山形県支部設立のための準備委員会を有志で結成しました。6月1日に山形市で参加者10人で第1回目の準備会を開催し、11月に設立総会の開催を決定いたしました。7月27日、仙台市において設立準備委員5人と全学同窓会役員7人で準備打合せを行い、本部同窓会と設立総会要項、支部運営規則案などについて協議いたしました。

私自身も山形県鶴岡市で30年間設計事務所を営んでいます。その中で東北工業大学の同級、同窓の皆様とのネットワークがあったからこそ事業が発展出来たと感じています。又当社でも、同学の卒業生が技術者として3人活躍しています。山形県支部が発足した暁には、活動を通して構築されたネットワークが同窓生の地域での更なる及び産業への貢献に結びつくことを期待します。大学が推し進める「地域に根差した文化と産業の発展に貢献する」の建学の精神に基づき、大学とも連携し地域発展に寄与出来れば何よりです。

11月9日の支部設立総会には是非とも多くの同窓生の皆様に参加頂きます様、お願いいたします。



仙台市にて準備打合せ（7月開催）

## 「山形県支部設立総会・設立記念講演会・設立記念懇親会」開催のご案内

### 【東北工業大学同窓会山形県支部設立総会】

日 時：令和元年11月9日(土) 15:00～15:20  
会 場：ホテルメトロポリタン山形 山形市香澄町一丁目1番1号 TEL 023-628-1111

### 【東北工業大学同窓会山形県支部設立記念講演会】

日 時：令和元年11月9日(土) 15:30～16:20 ※入場無料  
会 場：ホテルメトロポリタン山形

### 【東北工業大学同窓会山形県支部設立記念懇親会】

日 時：令和元年11月9日(土) 16:50～  
会 場：ホテルメトロポリタン山形 4階 霞城 A 間  
会 費：5,000円

### 【参加申込み方法及び問い合わせ先】

参加希望の方は、会場設定の都合上、同封の出欠ハガキ、FAXまたはメールにて10月11日(金)まで、お手数でもご回答のご連絡をお願いいたします。

東北工業大学同窓会事務局(キャリアサポート課内)  
E-mail: dousoukai@tohtech.ac.jp  
Tel: 022-305-3336 Fax: 022-305-3337



## 【関東圏の集い】

# 関東圏の集いに向けて



【関東圏東北工業大学同窓会の集い】 幹事長

井出 幸成 (いで ゆきなり) 氏

1972年 工業意匠科卒業(2回生・鈴木研究室)

現在 シンガポールにおいて世界のスランドショッパ販売什器製作会社、  
Redwood Interior Pte LTD www.redwood.com.sg  
日本支社Redwood Projects Japan株式会社 代表取締役

今年2月23日第二回関東圏東北工業大学同窓会の集い幹事会が行われ、懐かしい後輩たちが集った。そして私の長男(工業意匠学科平成11年卒)まで参加し、大いに昔話に花が咲いた、同じ釜の飯を食った仲とはよく言ったもので、学部、年齢の垣根を超えた同窓会の皆々は社会で大いに貢献、活躍されてきた雄姿の集まりでした。

早いもので私は今年古希を迎える、大学時代はスキー部で汗を流し、酒を覚え、授業ではしっかり図面を描きデザイン方法を取得し、今思えば充実した4年間だった、そこからサラリーマン36年、中国上海工場経営10年そして現在も仕事に励む70才。卒業後も部活のOB会にも参加し、後輩たちと楽しく過ごせたことに感謝している、又卒業生として私が携わった仕事を生徒たちに紹介する機会にも恵まれ、東北工業大学は本当に私にとって大切な“ふるさと”です。工業意匠科創立50周年を迎え半世紀にわたり世間に人材を送り出した大学に感謝したい。現に私の仕事仲間で大卒卒業生の数はそうそうたるメンバーと一緒に仕事で腕を振っている日本

で、世界で。最近友人の会社に建築科卒業の若者が入社してきて大いに励みになっている。

関東に在席の東北工業大学の同窓生がこれを機会に大いに集い、社会に、人生に、大きな糧となるような集まりにしてゆきたい。それが私の大学への恩返しになるのであれば、今回幹事長を務めさせていただきます。

関東圏の卒業生の皆様、ぜひ11月23日会に参加してください。



第2回関東圏同窓会の集い幹事会の様子(2月開催)

## 【関東圏円卓会議】及び「第2回関東圏東北工業大学同窓生の集い」開催のご案内

### 東北工業大学「関東圏円卓会議」

【日時】令和元年11月23日(土) 15時～16時30分

【会場】如水会館(東京都千代田区一ツ橋2-1-1)

【主催】東北工業大学

【協力】東北工業大学同窓会・「関東圏東北工業大学同窓生の集い」幹事会

【参加費】無料

【内容】1. 開会ご挨拶 2. 講演・話題提供 3. 「持続可能な東北」円卓会議 4. 閉会ご挨拶

### 「第2回関東圏東北工業大学同窓生の集い」

【日時】令和元年11月23日(土) 16時45分～18時30分

【会場】如水会館(東京都千代田区一ツ橋2-1-1) 【TEL】03(3261)1101

【主催】「関東圏東北工業大学同窓生の集い」幹事会

【協力】東北工業大学・東北工業大学同窓会

【参加費】3,000円

【参加申込み方法及び問い合わせ先】

下記同窓会事務局に、同封のハガキ及びEメールかFAXにて10月31日(木)まで、ご回答いただきますようお願いいたします。

東北工業大学同窓会事務局(キャリアサポート課内)

〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35-1 E mail: dousokai@tohtech.ac.jp

Tel:022-305-3336 Fax:022-305-3337

【青森支部】

# 円卓会議（公開情報交換会） 及び支部同窓会を開催しました

同窓会青森県支部事務

向井 務（むかい つとむ）氏

1982年 土木工学科卒業（12回生・今野研究室）  
現在 株式会社タケナカ

東北工業大学同窓会の皆様方及び関係各位の皆様方においては、お元気でご活躍の事とお慶び申し上げます。

青森県支部同窓会は隔年の開催となっており、令和元年の今年度は第1部に円卓会議、第2部として同窓会を行う運びとなりました。

青森県内、180名への案内状の送付や、円卓会議の登壇者は工大事務局まで打ち合わせに行ったりして、準備を進めてまいりました。

さて、6月1日土曜日16時より、第1部として円卓会議を開催しました。渡辺浩文副学長の開会の挨拶に始まり、環境エネルギー学科丸尾容子教授より「呼吸で病気を早期発見する～自分で行う健康管理を目指して」、建築学科中村琢己講師より「歴史的町並みを未来へ伝える一城下町・弘前での地域協働」の講演をして頂きました。

後半の「持続可能な東北」円卓会議では、同窓会青森県支部から倉橋純造・大宮哲彦・木村宗之・川村茂・福士直治の5名の登壇者を迎え、「地域資源の活用」

「県と大学との連携」「高度技術者・建築士などの資格取得のための教育の重要性」「青森県の現状や課題」等の意見、提案がありました。参加者からも様々な発言や意見があり、1時間45分があつという間の有意義な円卓会議が行うことが出来ました。

18時からは第2部として青森県支部同窓会を秋元俊通同窓会会長、高橋健一後援会副会長、渡邊浩文副学長、及び各関係者の参加をいただき開催しました。

例年よりは若干少なめな48名での同窓会となりましたが、東北工業大学に関するクイズ大会では工大野球部の仙台六大学野球連盟での優勝回数（4回）、今野弘学長が何代目の学長か？（9代目）等マニアックな出題もあり大変盛り上がりしました。最後は校歌を参加者全員で歌い2時間の予定時間があつと言う間に過ぎるほど、楽しい同窓会でした。

同窓会会員と関係各位の方々には遠方よりの出席をいただきまして誠にありがとうございました。また2年後には元気な姿でお会いしたいと思います。





【岩手北上支部】

岩手県北上支部活動報告

佐藤 功 (さとう こう) 氏  
1982年 建築学科卒業 (13回生・阿部研究室)  
現在 太陽住宅株式会社 代表取締役

同窓生、在学生の皆様こんにちは。卒業後10年程東京に就職し現在岩手県北上市で大学の同級生である妻(寿恵さん)と新築住宅工事、リフォーム工事、法人企業の建物から設備のメンテナンス工事などを行っています。北上の同窓会では八重樫実会長のもと事務局というお役を頂き活動の手助けをさせていただいております。支部は毎年2月三金曜日を同窓会の日と定め会を重ねております。

建築学科、土木学科1回生から平成20年代の卒業生まで学科を超え20~30数名程度ですが、楽しい交流の場となって恒例化しております。地域の先輩に地域の情報を気兼ねなく教えて頂く意味では大変よい場です。同窓会旗を作り、会の終わりに全員で学歌を斉唱しています。大学の同窓会からは秋元会長をはじめ事務局からもお越し頂き大学の現況の報告を受けております。今年は8月24日に北上で岩手県円卓会議を予定しています。

岩手県は先の3.11東日本大震災後の復興事業もひと段落した中、北上市は東芝メモリ株の1兆円の投資による工場建設工事もほぼ完成し2020年から本格量産に向けて大きな求人を行っています。またその関連した企業の誘致・求人も増えていきますし、その人達の入居まいを想定したアパート建設の建設ラッシュになっております。

まだ確定ではありませんが、国際リニヤコライダー計画による地域振興ビジョンを立ち上げ誘致活動も行っています。

岩手から北上から最先端技術を生かして世界へ挑戦できる場を提供しています。北上は非常に活気があり将来性のある明るい街です。今後就職を希望する在学生の皆様に良い働き場を提供できる地域だと考えています。

岩手で働く同窓生の一人として在学生の皆様の岩手への就職を希望します。北上支部は今後も会を重ねていきます。その為、お近くの同窓生皆様の連絡をお



北上支部同窓会時写真

【新潟支部】

新たな同窓会 (工大人) の絆を目指し

動山 憲一 (どうやま けんいち) 氏  
1975年 土木工学科卒業 (第6回生・盛合研究室)  
現在 学校法人 みのり学園

令和元年6月2日(日)第22回東北工業大学同窓会新潟県支部総会を新潟市内のホテルで開催しました。

本年度も恒例としております後援会新潟県支部との同日開催、総会終了後には両支部合同の懇親会を合わせて実施し、本学の職員、保護者、OBの情報交換の場となりました。

本学から菊地副学長、伊藤後援会副会長を始め大勢の本学関係者の方々からご臨席と総会開催のお祝いのお言葉を賜りました。

さて、同窓会支部総会では、昨年度の決算、事業報告と本年度の事業、予算計画として、当県支部総会の更なるの盛上りに繋げる事業として、本学及び、同窓会、後援会との交流参加を積極的に呼びかける事業を盛り込んだ案が承認され、更なる同窓新潟支部(工大人)の結束(絆)を目指すことを確認することができました。

また、懇親会の席では、今年は新潟県からの本学への入学者が昨年と同じく8名の入学者あり、新潟県出身の在学生在が総勢20名余を数えたとのお話があり、新潟支部会が数年来、危惧して来た本県からの入学者の減少と、本支部会員の減少からの回生を願った活動の成果として捉えています。

このような支部活動の継続が大きな絆の広がりとなるよう期待し、本学及び同窓会の更なる繁栄を祈念し、支部活動報告とします。



【北海道支部】

同窓会支部活動報告

北海道支部長

山口 龍彦 (やまぐち たつひこ) 氏

1974年 土木工学科卒業(4回生・大沼研究室)  
元札幌市役所勤務

平成から令和へと元号が変わり、より豊かで平和な社会になることを期待しつつ3か月。東北工大同窓会の皆様におかれましてはお元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、皆さんは北海道の広大さについて考えたことがありますか。面積は約83000km<sup>2</sup>で日本の国土の5分の1、実に東北六県に新潟県・富山県を加えた広さに匹敵します。また距離は南北400km、東西520kmあって、札幌から道路延長で函館まで250km、稚内まで315km、網走まで319km、根室までは何と453kmもあります。私も釧路と根室は隣の町で、すぐ近くだと思っていたのですが、実は130kmもあってびっくりさせられたことがあります。

このように広大な北海道で同窓生の方々に出来るだけ北海道支部の存在や活動を認識して頂きたくて、3年前から『北海道支部だより』を約600名に発送し始めました。これまでは年に2回、北海道科学大学との運動部定期戦時に行われる大学関係者との懇親会や札幌で開催している忘・新年会の活動の報告やご案内をさせていただいております。その甲斐もあり昨年12月に開催した『本部総会報告会兼支部忘年会』には、遠くは帯広や歌登からの方を含め通信4名、建築6名、土木7名、意匠1名の計18名の参加いただきました。通信の方が4名も参加されたのは初めてで、主催した幹事は大いに喜んだところです。

また、青森県支部から青森支部同窓会へのお誘いがあるなど他支部との繋がりも出来てきており、今後は函館地区の方々に参加頂けるような取組を行いたいと考えております。



2018.12.8 忘年会にて

【工大技術士会】

東北工業大学  
技術士会の紹介

東北工業大学技術士会 会長

又城 隆 (またしろ たかし) 氏

1976年 土木工学科卒業(第6回生 佐藤・高橋研究室)

私たち東北工業大学技術士会(以下、「工大技術士会」)は、1997年(平成9年)10月に設立され、今年で設立22年となる組織です。工大技術士会の存在や活動内容をご存知のない方もおられると思いますので、ここに紹介させていただきます。

工大技術士会は、東北工業大学出身の技術士・技術士補で構成され、会員相互の技術交流、母校東北工業大学の学生の教育に寄与することを目的に活動しております。

2014年(平成26年)には、大学技術士会の全国組織である「大学技術士会連絡協議会」に全国22番目の大学技術士会として加盟し、全国の大学技術士会と横の連携を図っております。

工大技術士会の主な活動としましては、本学教員を講師に迎えての研修会の開催、本学の授業およびセミナーへの講師派遣、JABEEコース修了生および技術士一次試験合格者への指導技術士の紹介等です。

会員数は、2019年6月末時点で116名(技術士80名、技術士補36名)となり、大学との連携も年を追うごとに強化され、工大技術士会の意義・活動は益々重要視されております。一方で、本学出身の技術士として社会で活躍されている会員以外の方も多数存在していると推測されますが、個人情報保護法との兼ね合いもあり、技術士個人の連絡先の把握が課題となっております。同窓生の中で技術士を取得されている方は是非工大技術士会へ入会して頂き、母校を支える仲間に加わっていただきたいと思っております(入会に関する連絡先は以下のメールアドレスです)。

最後になりますが、今後も工大技術士会および大学の発展に向け努力してまいりますので、引き続き同窓生の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

■連絡先

東北工業大学技術士会事務局

大高 学 (1986年土木工学科卒業 第16回生)

Email: gijyutusikodai@gmail.com

入会手続きにお手数はおかけしません。また、入会金もありません。連絡をお待ちしております。



集合写真



## — ホームカミングデーの開催について —

ホームカミングデーは、同窓生が母校に集い旧友や恩師等との再会、さらには在學生との親睦を深めることで年代の枠を超えた同窓生相互の発展並びに大学関係者および在學生との交流・連携強化に繋げるイベントです。当日は、第44回工大祭「おかわり!」も開催しておりますので、皆様お誘いあわせのうえ、ぜひ母校にお越しください。皆様のご来場をお待ちしております。

開催日時：令和元年 10 月 12 日（土）10：30 から（受付は 10：00 開始）

場 所：東北工業大学八木山キャンパス 1 号館 2 階 122 教室

- ・ 学長挨拶
  - ・ 同窓会長挨拶
  - ・ 大学の近況報告
  - ・ 大学歌斉唱
  - ・ 応援団エール
  - ・ 大学見学（自由）
- ※第 44 回工大祭「おかわり!」併催中



## — 『第 44 回工大祭』のご案内 —

### 「おかわり!」



来場した方々に「もう一回」と思っただけのような、やみつきになる工大祭にしたいという思いを込め、テーマを『おかわり!』に決定しました。昨年度は、来場者が5,000名を超え平成最後にふさわしい工大祭となりました。今年は新しい元号を迎え初の工大祭ということで、変化を恐れず、より一層盛り上げるため、様々な変革を起こしたいと思っています。

多くの企画、屋台、展示など、先輩達が今まで積み上げてきた伝統を残しつつも新しいことにたくさん挑戦し、来場者数の確保だけでなく、来場してくれた方々に「また来たい」と思っただけのような、質の高い工大祭を目指しますので、多くの同窓生の皆様方のご来場をお待ちしております。

詳しくは、ホームページ、twitter、インスタグラムで検索してみてください。

開催日時：令和元年 10 月 12 日（土）10：00 ～ 15：00

令和元年 10 月 13 日（日）10：00 ～ 15：00



第 43 回工大祭



第 43 回工大祭メンバー

# 新学部・新学科 誕生。

2020年4月



よりよい未来を創り出す若者たちを育てるため、東北工業大学は3学部8学科体制へ発展します。わが国、特に東北地方の産業界で指導的役割を担う高度の技術者を育てるとともに、地域創造のため歩み続けます。

## 現行学部学科（2019年度入学まで）

工学部
電気電子工学科
情報通信工学科
建築学科
都市マネジメント学科
環境エネルギー学科

## 新学部学科体制（2020年度入学から）

工学部
電気電子工学科
情報通信工学科
都市マネジメント学科
環境応用化学科

建築学部
建築学科

ライフデザイン学部
クリエイティブデザイン学科
安全安心生活デザイン学科
経営コミュニケーション学科

ライフデザイン学部
産業デザイン学科
生活デザイン学科
経営コミュニケーション学科

## ▼▼▼ 建築学部開設記念パーティー ▼▼▼

主催 東北工業大学

日時 2020年4月18日（土）14時00分～18時00分

場所 仙台国際ホテル

【第一部】 記念講演「建築学の魅力と建築学部設置の意義」（仮題）

長澤泰氏：工学院大学総合研究所共生工学研究センター長

東京大学名誉教授・工学院大学名誉教授・工学院大学建築学部初代学部長

【第二部】 記念パーティー

※詳細については、あらためて大学および建築学科ホームページ等で周知予定。



### 《同窓会クラブ活動支援》

同窓会より、北海道科学大学総合定期戦に参加するクラブ（サッカー部、ソフトテニス部、硬式庭球部、バスケットボール部、剣道部、柔道部、アメリカンフットボール部、バレーボール部、ハンドボール部、弓道部、バドミントン部、卓球部）12団体と強化指定クラブである硬式野球部に対して、各クラブ団旗を同窓会にて作成し、物品支援いたしました。5月17日に行われた壮行会において今野学長より各クラブ代表者に贈呈致しました。



同窓会で支援した各クラブ団旗

北海道科学大学（前北海道工業大学）との総合定期戦は今回で34回目を迎えました。

今回の支援で定期戦が盛り上がり、学生にとっても実り多きものとなる様、祈念いたします。

同窓会はこれからも課外活動に取組む学生たちへの支援を継続してまいります。今後の工大生の活躍にぜひご期待ください。



総合定期戦（ゼビオアリーナ仙台）

## 【楽しいぞ！仙台城南！！】

### J. にゃんプロジェクト

### 仙台城南高 MV「ココカラミライへ」完成！！

～仙台城南生の元気とアイデアが爆発～

#### 1 J. にゃんプロジェクトとは

J. にゃんプロジェクトとは、平成27年に本校の特進科を卒業生した女子生徒が在学中に考案した本校のマスコットキャラクター「J. にゃん(じょうにゃん)」が、明るく元気な生徒達の活動の様子を、今後様々な場面で紹介していくことをコンセプトに発足したプロジェクトです。

#### 2 MV「ココカラミライへ」の完成

プロジェクトの第1弾として、本校のMV（ミュージックビデオ）を制作することになり、玉木百合先生（音楽）をチーフとした先生方や生徒達からなるチームが結成されました。

テーマ曲の作詞・作曲は生徒から公募し、ダンスの振り付けはダンス部が中心となり考案することで作業が進みだしました。また、撮影や編集は工大MC学科の猿渡学先生はじめ研究室の皆さんのご協

力を得られることになりました。

結局、テーマ曲は全生徒からフレーズを出してもらい、それを繋ぎ合わせるなどしてメンバーが歌詞としてまとめました。曲名である「ココカラミライへ」も生徒が考えました。ダンスには、ダンス部ばかりでなく軽音学部、吹奏学部、チア部放送部、生徒会総務の生徒達、それに守衛さんや清掃業務に当たって下さっているユニパルの方々、そして我々教職員も加わっています。

計画から約1年の時間はかかりましたが、「ココカラミライへ」は生徒達の総力で立派に出来上がり、まさに本校の大きな宝物となりました。

是非とも、工大同窓会の皆様にもご覧いただき、生徒達の元気さを感じていただければと存じます（画像をQRコードでお読み取り下さい）。



< 同窓会からのお知らせ >

## 東北工業大学同窓会 第35回定時総会・懇親会のお知らせ

### 【総会議題】

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| < 1 > 平成 30 年度事業報告 | < 4 > 令和元年度事業計画 |
| < 2 > 平成 30 年度決算報告 | < 5 > 令和元年度予算案  |
| < 3 > 平成 30 年度監査報告 | < 6 > その他       |

### 【定時総会・懇親会】

開催日 令和元年 10 月 12 日 (土)

会場 仙台国際ホテル

(仙台市青葉区中央 4-6-1 022-268-1111 (代))

■定時総会 16:30 ~ 17:30 3F 桜の間

■懇親会 17:30 ~ 19:30 2F 平成の間

### 懇親会参加費 3,000 円 (※学生会員は無料となります。)

※参加費は当日会場にて徴収いたします。

懇親会には多くの先生方もご臨席されます。同級生、研究室やクラブの同窓生等、お誘い合わせの上で参加ください。

- 尚、当日はホームカミングデーが開催されます。  
詳細は P16 でご確認ください。

卒業した皆様へ

## 東北工業大学同窓会 会費未納の方へ「会費納入のお願い」

同窓会会費は会員間のネットワーク化事業、在学生への支援、支部活動の推進、本学および本学後援会との共同事業等を進めるために有効に活用しています。同窓会会費未納の方は、別紙郵便振替通知書で、早急に納入いただきますようお願い申し上げます。

- 終身会費 20,000 円  
(5,000 円×4回・10,000 円×2回の分割納入方法もございます)

- 郵便振替口座  
**02280-5-22263 東北工業大学同窓会**

※すでに納入済の会員には、郵便振替通知書は同封していません。  
本会運営の趣旨をご理解の上、この通知をご御容赦ください。

発行：東北工業大学同窓会

事務局：東北工業大学キャリアサポート課内

〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町 35-1

TEL.022-305-3336 FAX.022-305-3337

URL.koudai-dousoukai.net